繪本將門一代記

一

特別
リ5
15641
1

9 (特)
115
15641
1

繪本將門記

夫繪事の妙なるゝ古今乃事を寫して九上ゐ
歴然たるゝしむ所謂前九年後三年保元平治源
平南北朝など世ゝの丹青ふあきゝゝゝ今
天慶乃將門義平の純友乃逆乱ゝ
小冊の画とゝして太平の代乃既ひ
居て危を思ひ文事あるゝの武備あるゝ
も叶ひたゝんゝ

瀧水子

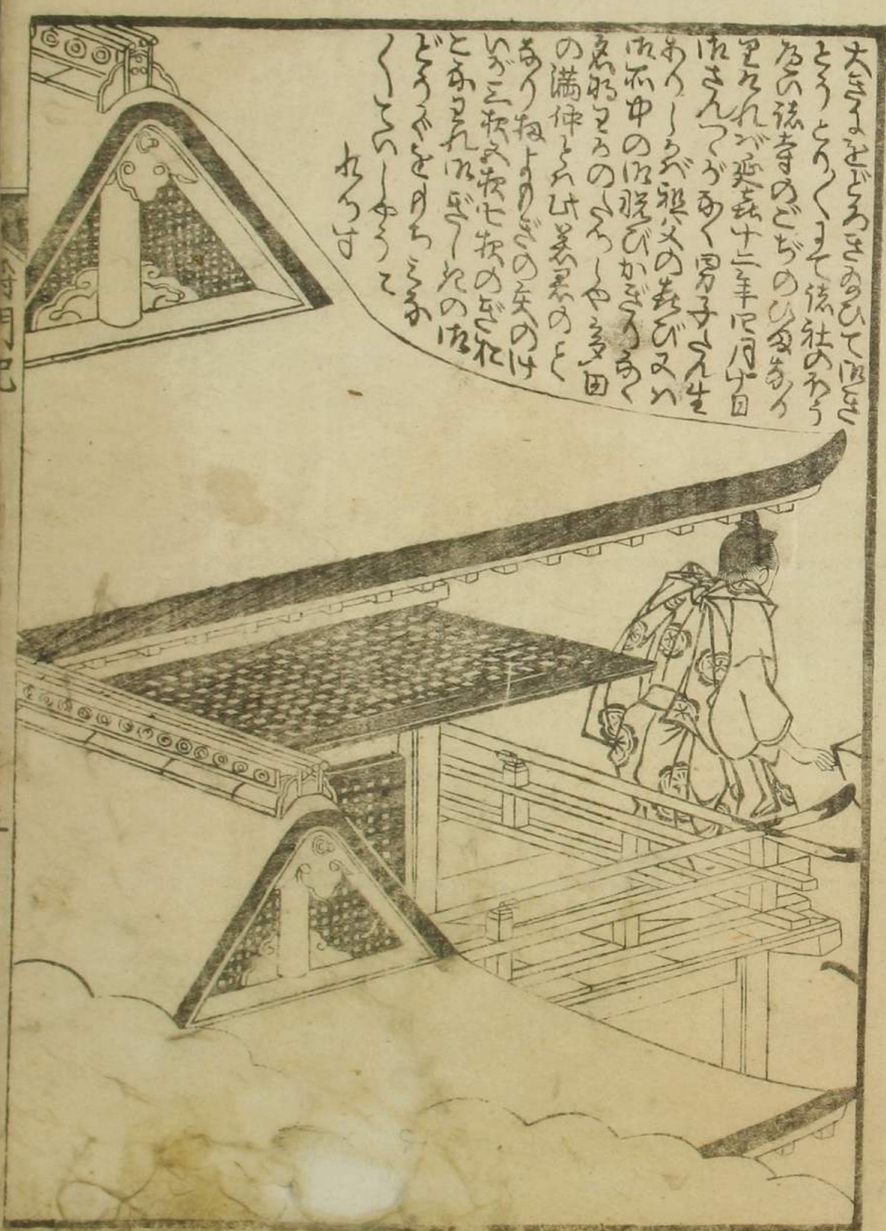
慶應大學

抑源家は本朝人皇の始神武天皇
より五十六代のていて清和天皇第
一の皇子貞純親王の御ゆう伝ぢめぜん
ありてゆずの天皇と号し奉る
其六の皇子つねもとの正四位
上さぎすこしんまい二条の
大ゐや桃園の内裏より位
をうけ給ひつゆりとの王い
其六の皇子のゐまご
るふより世りつて六孫
王と世ろーたりそのさ
しつのひんかあるてしけ
かーずぶき世ろれちふ
さうにあるひぶんそう
そくらんぐつにようぐ
ゆろー兼てはくぐ倭寇
みぞくーるべいるに
べ文しつひんくーる
君子あるとるんぎ七
年十月五日にとーー十
五才にてゆずりれい敬そて
位ぐんぶぐありかるんい
位母うこの伯父源経任
ゐとそちゐ芝系のあ
六孫王経基

そんさぐうさあうーそく
さいそるゆゆにようそあひ
主上はあるーーのうる
さ為冠のさんようー始
て衣紋のきーー
ゐいるうとま
ことふつたぐ
ちーぞ乃くよ
ろる則ちりー
おとるつ目左ろ
のかよ任ど正六
位上うぞおよせ
らるそでめて
源の姓をなま
ろうろつる
うとをのろ
て日ゆの大
ゐ軍武士の
ろうりゆうた
ーうそ白ちさーか
ぐれらてんのはろん
一ようをそくて兵
をトーのうろ
ろる

其ころ武義も
橋わたんあつ有
一人のむすめあ
うちるぞよ
ひとそ十
六ふあり
るさんが其
さちうろ
くる人意
をもやまず
とふとあく其よた
ぐひあくきこ
父あつ有内と往基よ
けーれどこあひるを
さどそこ親王とひうけ
させあひ延喜十年とん
いんのぎゆうてう父んだう
ふうあくれんちうに
かーあひうあけさう
ふそあかさあうちどあく
ムといんせさせあひーうび
西八条の文ようーあり
拙ん月よあうーうどもさう
よさんどゆうのさもあー親王

大きうよどろあさあひて
とうとうくして依社のあう
あひ法寺のどちのひあ
王れど延喜十二年正月廿日
れさんつがあく男子ん生
あうーうび張父の若びひい
れ仏中のは祝びかぎうあく
あれるとうのーうーや多田
の満仲とんけ美景のと
あうねよりぎの矢のけ
いぎ三枚式枚七枚のぎれ
とあうれれぎーれのは
どうぎをりちうあ
くこいーあうて
れうす



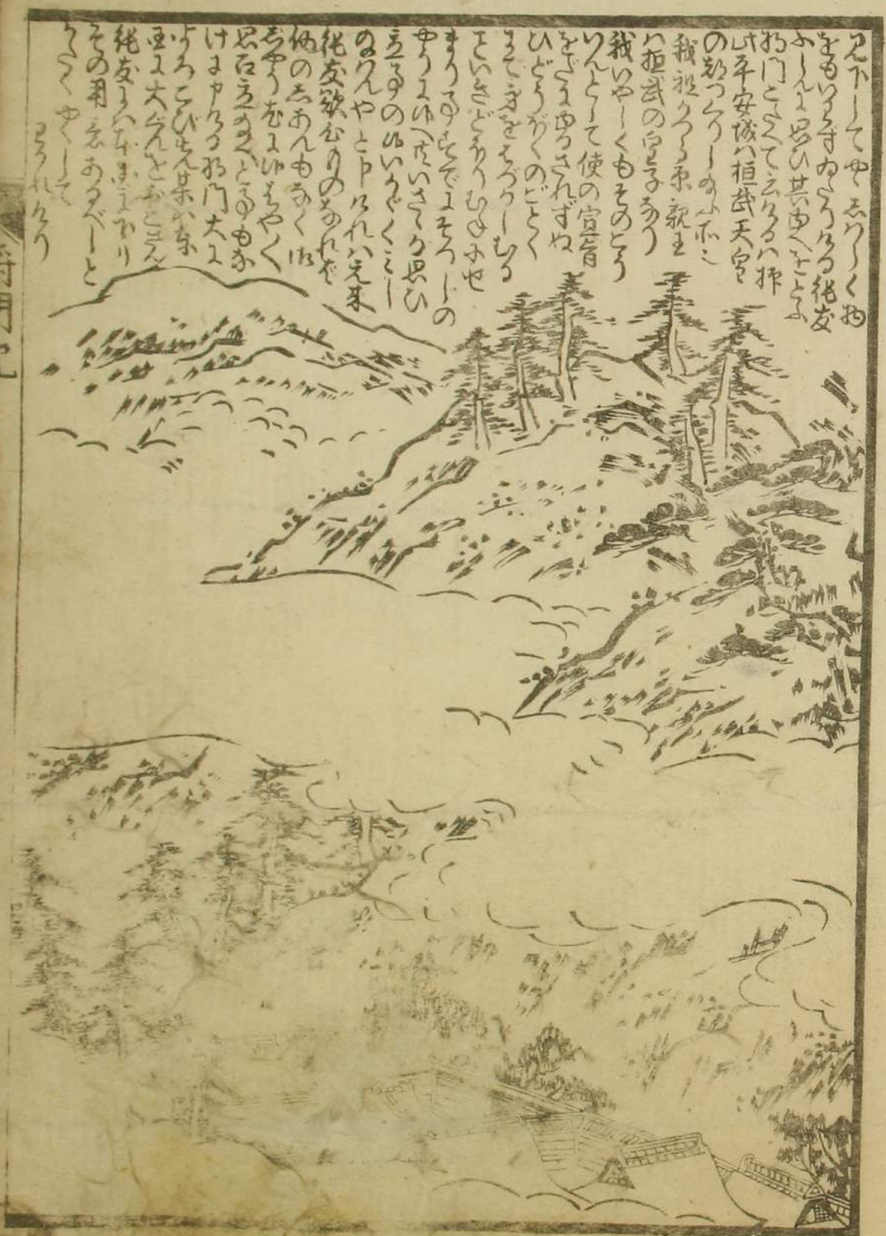
六十一代朱雀帝と申ハ
ごいご天皇
第十一の宮
あう延喜三
年ゑ大きゐの
ぜちゑおこゐつれ
同八年十二月廿二日
位年八オ にて天ゐ
の位ゑ位をゆずり
ゆれ年号ゐぐんあって
承平ゆぞうつされる七
月十九日宮多の法皇ゐり
ぎょあっせゐゑ又同二年
の秋一つのゆぎあり と
よいとけあくまし
生せびはゆうのさ
めゑとておゐう
ゐえんでんの位
つがゑ山をき
づうを考ゑを
ゆきうゐって
はらんぜゐる
ゐるとれ山の

うしろより大きゐる
赤出てゆてんのうち
小光ゆわがきゐのい
きゐひ人とかごろきた
まひしゐ名役基の王
ハ一矢をめてゐのゐふ
でイトさそびゑをれ
々武士らさゐるさの
ゐゐくとゐあゑ

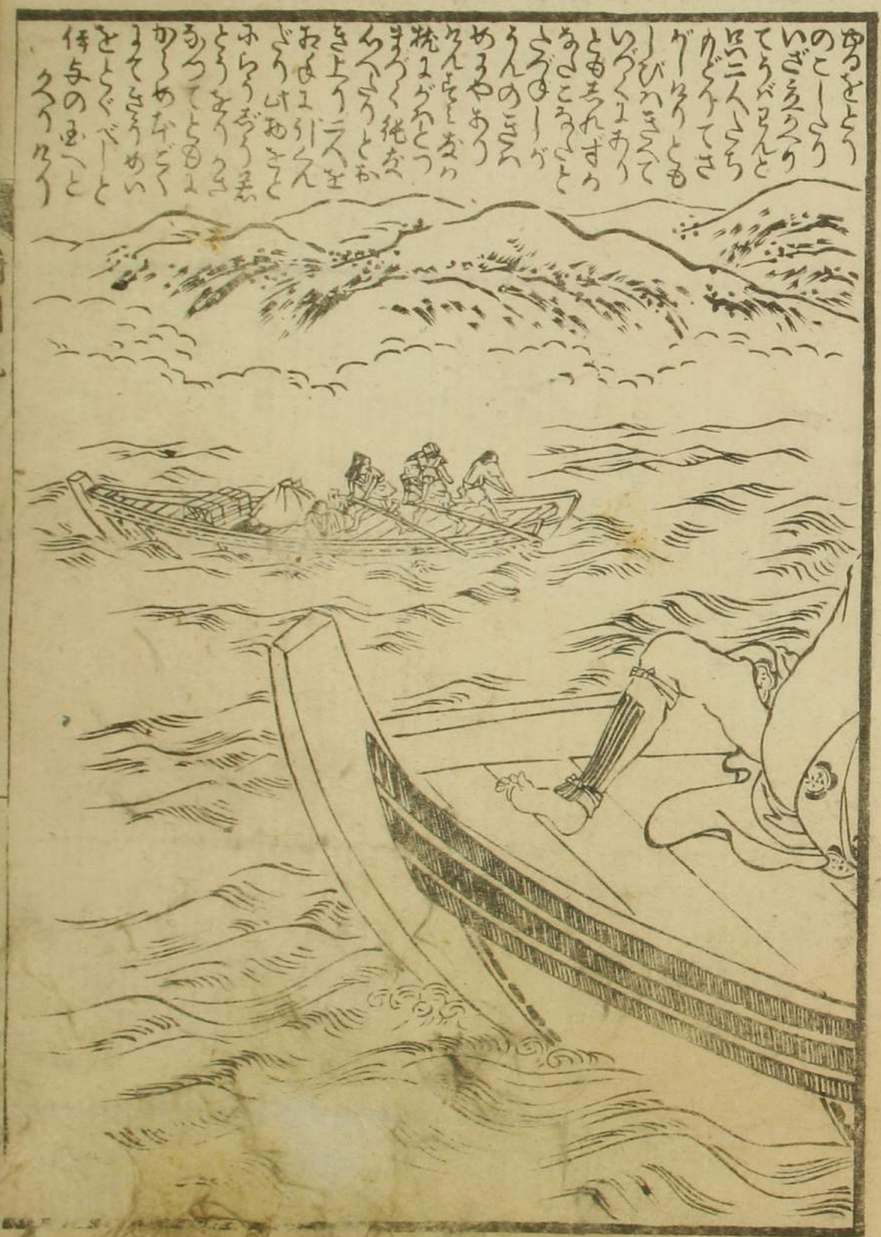
将門

将門
公連

将門
純友



純友



去程に純友は伊豫より至夜いんおうの心さしその外他ゆゑくんをとらんとつかせ給ふ由を聞きゆゑあくまのしゅりゐんの文書を出して義に和めせんちうして生どりとりしのぞくを在上おろそかおりてをゆるうげ云るいは我いさりをよどんあんてあんちうぐつこをあるべ命をこうけ申ぬるさいは今京師に平ゐ門親王義兵をあげのゆ我氏第に親れ尚京師をあげ旧京中京を切おびけ東西より同時に攻上せめのぼり彼門親王を天子とあがめ我氏白とみつて天下をぬんゆ入うまあんりあんらく後のゑのよりを思ひ出ゐ第に つくて軍忠をいたせ二人共に一ヶ国づゝをあておとあのべとられて親王ようぶされしるべんぜいさいそくの令有あり とそくどんの名を元

出しよりこゝあげ
ゐれいとんどく
ふてゐの海
ぞくどもと
ゆめでゝゐん
ゐるべて
二人う命
ゝをかから
ろくのくゐ
らずゐ終の
ちとあくん
ゐかりゐられ
しれゐのこそ
ゆゆ我こゆ
ゑ年すぢう
ゐまてうこと
ゐろいがゝも
ゐゐ源うて
ゆ山陽山
ゐあ乃の
ゐとゐ
我ホゐ下
ての若たてく
ゐいとゐをあうくゆ
ゐこの軍勢をう僧
しそせさんぜゝ
りやうぞうしられば純友大きゝ
ゐろこびう出ゐゆかどゐのゐられいそくに
行ゐ出こをゐりさいそくせゝ久其勢二万人に及ぶう

摂政
忠平公

式部少輔
紀淑人

玄孫又
波人家
のみなもの
清氏ときハ
ち玉を石て
のなまひろハ我いや
しくもいちゝこゝあり
るゝ尚時の住名まつ
代のさゝ者くとよ
ろこびうせんの羽
衣ー波辺神ざれ
てみよそおひー
て伊豫玉ーとをー
出すよく日まろ
夫の神よいてうて
むふを見れハ父とこの
ちさをえさろ母ニ
三百そうとも名を
そろくてさくさう
すろてれよと味
ろこのぐん場夫さ
なりとおて行ろけー
ホ小永一そうこぎ
第ー秋とハ絶交多
年ありとの老ふもも
らず只一命をこゝろ
らんこゝ一味仕ん何と
それさすけ下さるべー
といつろうあきるねん
波多野清氏
常盤守國
ぞろこヤ又
よつてよーくきこ
ようあつて尚ほ
まぞくしのみて
海上つゞのくい
よのぶへそうをめ

正